

## フラワー家の真実告知

シンポジウムでは、時間の関係で全てを読むことができなかったのですが、こちらでは全文を載せたいと思います。

私が初めてマザーさんの旧会のHPを知ったのは、平成19年3月13日でした。あの日から9年が経ちました。

その間に3人の子供たちとのご縁を結んでいただきました。

初めてマザーさんと面接をした日、まさにその日の朝にカモミールは産声を上げていました。

早いご縁だと思われるかたもおられるとは思いますが、婚姻期間が足りなく、面接まで待った時間もありました。

私たちの住む場所は、家の裏の池ではもりあおがえるが産卵をし、山にはささゆりが咲き、夏前には蛍の舞を見ることができる、豊かな自然にあふれています。

そのような環境の中で、主人の両親と家族7人で住んでいます。

五感を刺激する体験や遊びを大切にしています。

長女のカモミールは6月29日で8歳になりました。

今、小学2年生です。

カモミールに初めて本格的な告知をしたのは、2012年4月14日の第一回西日本すずらん会の時です。

カモミールが私のお腹から産まれて来ていないこと。

〇〇さんという女の人から産まれて、特別養子縁組前提で我が家に来たこと。パパもママもカモミールと親子になれてほんとうに嬉しいこと。〇〇さんに感謝していること。

引き渡しの時はどんな様子だったか、初めて抱っこしたときの忘れられない嬉しさなどを話しました。

その時のカモミールの反応は「〇〇さんて誰なん？どこにおるん？」と、そんなに意味を理解している様子ではなかったです。

それまでにも、絵本の「ふたりのお母さんからあなたへのおくりもの」をよく読み聞かせていましたが、3歳ではまだ理解するには無理があると感じました。

それでもふとした時に、カモミールから「〇〇さんのお腹から産まれたんやんなぁ？」と、聞いてくることもあり、その都度、その時のカモミールがわかるような言葉

で、丁寧に本当のことを話してきました。

8歳になったカモミールはもうずいぶんわかっている部分もあり、それでもすべてを理解するにはまだまだ時間のかかることだと思います。

小学校では3年生で、受精についての勉強があります。その頃から今より具体的な告知もできると思います。

命のカリキュラムは保育園から始まります。

産まれた時のものを持参したり、生まれた時のお母さんの気持ちを聞いてくるといった宿題がありました。

2年生では、名前に込められた意味などが道德の宿題に出されました。

保育園の年少の時に「みんなはお母さんのお腹から産まれてきましたよね」といった先生の言葉に、カモミールは「カモミールは〇〇さんのお腹から産まれた...」と言ったと帰ってから話すので、先生が困惑しているかなと思い早く先生に特別養子であることを話しておこうと思い、先生と話の場を持ちました。でも、〇〇さんのお腹から産まれたというカモミールの声は先生には聞こえていなかったようでしたから、ちょうど本当のことを話す良い機会になりました。

この保育園の先生は児童養護施設で働いていた経験があり、養子であることをとても理解してくださり、施設の現状を教えてください、私たち家族を応援してくれました。

「カモミールの描く絵には光るものがあるから、いつでも絵が描けるようにしておいてください。小学校になるときっと賞を取るよ」と言われていましたが、本当に去年の夏休みに描いた絵で賞をとりました。成長や発達、個性や特性については、保育園幼稚園の先生方が一番よく見ていると思います。

幼稚園の園長先生は、実の妹さんが児童相談所から子供を迎えまさに特別養子縁組の裁判の真っ最中でしたので、カモミールの話をしたときは、お互いに驚いたり喜んだり、あまり詳しい説明などは必要ありませんでした。

出会う先生方の特別養子縁組の理解度によっても子供や周りへの告知の仕方は変わってくると思います。

カモミールは恵まれた環境であったと思います。

カモミールは何事に対しても年齢よりは理解も早くしっかりとしている方ですが、一人の時に自分を守る言葉は持っていません。

周囲の人もママ友もみんな知っていることなので、他の大人や子供から「カモミール

ルちゃんて養子やねんて」などの話が幼稚園ででた時などには、変に話を変えたりお友達に隠したりごまかしたりしないように先生にはお願いをしました。「フラワー家に来るために産まれてきたのよ」などと言ってもらうように話しました。

最近、お友達のお父さんから、「自分の子にカモミールちゃんが養子って話しているか？」と聞かれました。周りは周りで私たち家族に気を配ってくれているのだなと思います。

カモミールはオープンな性格で、1年生の時には集団登校の時に、6年生のお姉ちゃんと秘密の言い合いっこをして「カモミール、養子やねんて言ってん。それから〇〇県にお姉ちゃんがおることも～」と帰ってきて私に話した時には私がビックリしましたが、たぶん、聞いた6年生のお姉ちゃんのほうが衝撃的だったのではないかと思います。そんな話をしたからといって何かが変わることもありませんでした。幼稚園の頃からカモミールはお友達にも養子であることを話していたようですが、言われたお友達も「養子ってなに？」みたいな反応だったようです。

赤ちゃんの頃から読み聞かせていた「ふたりのおかあさんからあなたへのおくりもの」ですが、理解力の早いカモミールでも「2人のおかあさん」という言葉や意味がちゃんと伝わっていないようで、とまどうのではないかと思います。読むのを少しやめていました。今読めば理解していけると思います。

我が家の告知ですが、子供にうそをつきたくないという、自分が正直でありたいという大人の都合を押し付けたり大人の考えを刷り込んだりしないようにしています。

受け止める子供の感情はまた別物だからです。我が家では、実母さんのことは、みんな苗字で呼んでいます。

昨年、カモミールが「なあ～、カモミール思ってんけど、じゃあ〇〇さんもおかあさんじゃない？」と私に話して来ました。

やった～！！と思いました。

それまでも〇〇さんのお腹から生まれ、我が家にやってきたことなどすべて話しており、カモミールとはよく養子であることも会話にでてきていました。でも、自分自身で考えて、理解していった気づいて欲しいと思っていました。

たとえば挨拶やお礼を言う時に「ありがとうでしょ？」「こんにちはでしょ？」と親

が子供に促すのではなく、「こんな時はどう言うんだった？」「どんな気持ちでした？」と、子供自身が自分で考えるようにしています。

それからその時にお姉ちゃん以外に、他にも兄姉がいることを伝えました。「なんでも言ってくれへんかったん？」と少し不機嫌な感じで言われました。「それは、隠していたんじゃないくて、カモミールが理解できるようになってきたら話そうと考えていたんだよ」といいました。カモミールは、他に兄妹がいることが不思議だけど嬉しいような感じでした。

でも「なあママ～、思うんやけど、フラワーカモミールって名前より、〇〇(実母さんの苗字)カモミールの方がきれくない？」と言ってきました。「そうやな、それはママも思うけど、でもカモミールは、〇〇さんのお腹から産まれることを選んで、うちの子になるんを選んで産まれてきたとママは思うんよ。これも運命やん。それに結婚したらまた姓は変わるやん」「そやな～！」みたいな会話をしました。実母さんの戸籍謄本を見せましたが「読まれへ～ん」と嘆いています。それが読めるようになる頃には、きっと全てを理解できているだろうなと思います。

5歳の長男ミントですが、お姉ちゃんがよくしゃべるから、その陰になりがちですが、私たちの話も、実母さんの話もよく聞いていたようで、去年「ミントは誰から生まれたん？〇〇さん？」といきなり聞いてきました。びっくりしました。ふだん、〇〇さんのお腹からうまれたことなどは話していましたが、ミントからそのことについてなにかをいってくることはなかったからです。でもちゃんと聞いて覚えていたことに驚きと嬉しさがありました。

その日のお風呂のなかで、「ミントなあ、〇〇さんになんかプレゼントしたいな」と言ってきました。「いいねえ、なにがしたい」と聞くと「花束をあげたい。会ってみたいなあ」と言いました。そうか、今は会えないけど大きくなって会える時が来たら、マザーさんに相談して、プレゼントわたそうね」と言いました。

以前は、成人して会うのがいいと思っていましたが、最近は、小さいうちでも会ってみてもいいのではないかと思うようになりました。それは子供や家庭の事情によってそれぞれさまざまな時期でいいのではと思います。

カモミールに関してですが、生まれた時のことがあまりわからなかったのですが、生まれた病院に問い合わせたところ、実母さんの分は無理ですが、カモミールのカ

ルテ開示はできることがわかり、一年前に開示をしてもらい、今までわからなかった部分を知ることができました。

このカルテのおかげで、よりわかりやすくこれからの真実告知がしていけるとおもいます。

今日は撮影も入っていますのでぜひともこの部分は使って

いただきたいのですが、

私たち養親は、子供が欲しくて欲しくて、夫婦で特別養子で子供を迎え家族になることを選択しました。

産みのお母さんから、大切な命を託してもらい、愛情をめいっぱいかけて子育てをしている特別養子縁組をした家族です。

決してかわいそうな子供を育てていませんし、

子供たちは産みのお母さんから捨てられたのでもありません。

制度を知らない人がよく誤解されるのですが、養親に行政からなんらかの補助ができるわけでもありません。

血のつながりはなくとも、養親皆が、子供との心の絆を太く太く紡いでいる最中です。

子供への愛情は誰にも負けないBPの縁組家族です。

裁判所からの書類やカルテを子供たちが読んだら、悲しくなるようなことが書いてあるかも知れません。思春期や反抗期には、私たち養親や実母さんに対して、マイナスな感情を持つこともあるかも知れません。でもどれもその子の素直な気持ちでありその時の感情もとても大切なものだと思います。

その気持ちを認め受け止められなければ、子供たちは養親に本音を話してくれなくなるように思います。

私自身もいつも自分の親に感謝をしながら生活をしていません。ほんとうに母に感謝の気持ちを感じたのは、子育てを始めてからでした。

だから、子供たちがほんとうの意味で産んでくれたお母さんに感謝の気持ちが芽生えるのは、まだまだ先のことなのかも知れないと思います。

もちろん、これは我が家の告知の仕方であり、考えであり、正解でも不正解でもありません。

それぞれの縁組家族によって、告知のタイミングや時期、内容、方法は違うと思い



ます。

子供にとって最善だと思う真実告知は、側でいつも子供を見てその子を一番理解している養親にしかできないことだと思います。

私は人から評価される養親になりたいのではありません。

子供たちが「産まれて来てよかったな」と心から思ってくれる日が来るのが私たち夫婦の願いです。

最後になりましたが、マザーさんには感謝の言葉しかありません。反発したり、会を離れようと考えた時期も正直ありました。

でもそんな気持ちも全部マザーさんにぶつけてきました。

相手にされていないのか広い心で受け止めてくれているのかは定かではありませんが、ちゃんと私たち家族のことを考えてくださっていることに深く深く感謝しています。

最近はまだあまり恩返しもできていませんが、将来的には、ファミリーホームや母子寮として我が家も協力ができればいいなと思っています。

長くなりましたが、これで我が家の告知の話を終わらせていただきます。

ありがとうございました。